

<p>期のねらい</p>	<p>○生活の中で自分でできることは進んでしようとする。 ○自分の思いを様々な方法で表現し、相手に伝えようとする。 ○身近な自然や環境に興味をもち関わって遊ぶことを楽しむ。</p>					<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使った遊具や自分の持ち物を自分で片付けようとする。 ・冬の生活の仕方を知り、自分でしようとする。 ・教師や友だちにしぐさや言葉で思いを伝えようとする。 ・遊びながらイメージしていることを同じ場で遊んでいる友だちや教師に見せたり知らせたりする。 ・知っている言葉を使ったり経験したことを教師や友だちに話そうしたりする。 ・教師や友だちと一緒に存分に身体を使って遊ぶ楽しさや心地よさを味わう。 ・身近な遊具、素材を使って自分の作りたいものを作り、それらを用いて友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・冬の自然に触れたり遊びに取り入れたいし、面白さを感じる。
<p>子どもの姿と願い</p>	<p>・砂場では、お鍋に落ち葉を入れ、「スープ作ってるよ」ドングリを混ぜながら「お米といでるよ」など秋の自然物を使ってごちそう作りを楽しむ姿が見られた。雨上がりの日には、ドロドロになった土に触れながら泥団子作りをし、たくさん並べて、「いっぱい作ったよ」「置いてたら固くなるかな？」など友だち同士で話しながら遊ぶ姿があった。 ・制作コーナーでは、フラワーペーパーを丸めてケーキに見立てて作ることを楽しみ、友だちの作っているものに興味を持って「どうやって作ったの?」と聞いたりしながらまねて同じものを作って遊ぶ姿が見られた。異年齢交流でケーキ屋さんを招待してもらった経験から、作ったものをままごとコーナーに持って行き「ケーキ屋さんで〜す」「ケーキ買いにきてくださ〜い」と言ったり、ケーキをトングでつかみ、買いに来た人に渡したりすることを楽しんでいる。遊びの中での簡単なやりとりを楽しめるように、教師も一緒に遊びながら個々の思いを受け止めていきたい。</p>					<p>☆ 環境の構成 ● 教師の援助</p>
<p>週のねらい</p>	<p>①遊びたい場所や用具を自分なりに作ったり活用したりしながら、教師や友だちと遊ぶことを楽しむ。 ②自分の思ったことを教師や友だちに伝えようとする。</p>	<p>内容</p> <p>①おいかけごっこやポックリ、ボールなど教師や友だちと一緒に存分に体を動かして遊ぶ。 ①自分なりに身近な素材や用具を取り入れ遊ぶことを楽しむ。 ②遊びの中で遊んでいることのイメージを話しながら、なりきったり物や言葉を使ってやりとりしたりする。 ②困っていることやしてほしいことを知らせて、教師や友だちと一緒にしようとする。</p>	<p>①遊びたい場所や用具を自分なりに作ったり活用したりしながら、教師や友だちと遊ぶことを楽しむ。 ☆ボールやポックリを保育室前に置いておく。 ☆お面、草、虹のトンネルなどを用意し、子どもたちが使いたい時にすぐ使えるようにしておく。 ☆空き箱・スズランテープ、カップ、ドングリなど用意しておく。 ☆砂場でごちそう作りが楽しめるようにドングリや落ち葉などもおいて置く。 ☆先週から楽しんでいるケーキ屋さんごっこのエプロンやテーブルなどを置いておき、ごっこ遊びが楽しめるようにする。 ●おいかけっこでは、教師も加わり繰り返し遊んだり、走ったりつかまえたりすることを楽しめるようにする。 ●素材を組み合わせ作ったものを飾ったり身につけたりして遊んでいることに共感したり、難しいところは要求に応じて手伝ったりして作る楽しさが感じられるようにする。 ●ソフト積み木で思いついた遊び場を構成して遊ぶ楽しさに共感する。遊びの中で必要な物が出てきたときは、「こんなのはどう?」と知らせたり、子どもたちからの言葉をくみ取ったりしていく。</p>			
<p>1日(月)</p>	<p>2日(火)</p>	<p>3日(水)</p>	<p>4日(木)</p>	<p>5日(金)</p>	<p>1日(月) 弁当日・絵本返却 2日(火) 国公幼研究大会 3日(水) 絵本貸し出し 4日(木) 国公幼研究大会 5日(金) 絵本貸し出し</p>	
<p>○予想される子どもの活動*ねらい</p>	<p>8:00 ○登園する ・荷物整理をする。 ・帳面にシールを貼り、ポケットに入れる。・水やり (チューリップ、イチゴ、スナップエンドウ) ○好きな遊び (ブロック・電車・ままごと・絵本・制作遊び・秋の実遊び・砂場遊び・おいかけっこ・ポックリ・ボールなど) 10:45 片付け ○朝の集まり・手遊び・リズム遊び (・まつぼっくり・そうだったらいいのにな・やきいもグーチーパー・あわてんぼうのサンタクロース・ジャングルポッケ・ぱんやさんにおかいもの・パンダウサギコアラなど) 絵本返却 10:30 降園 絵本貸し出し ○お引越ゲーム、おちたおちたなどで遊ぶ。 *教師や友だちと簡単なルールのある遊びを楽しむ。</p>					
<p>振り返り</p>	<p>・制作したケーキをままごとコーナーにもっていき、ケーキ屋さんごっこをしていた。食べる場所が作りたいと数人でソフト積み木を並べ、買ったケーキをみんなでお家に運んだり、一緒に食べるまねをしたりすることを楽しむ姿が見られた。ケーキづくりのイメージが広がるように、イチヨウなどの自然物をだしておき、色々な素材をつかって制作が楽しめるようにしておく。 ・ボール遊びでは、友だちをめぐって投げようしたり、転がっていったボールを一緒に追いかけてたりする面白さも感じている様子が見られた。</p>	<p>・友だち同士でエプロンをつけ合ながらケーキ屋さんごっこが始まった。トレイにケーキをのせて食べる場所まで運んだり、トングでつかんでお皿にのせたりすることを楽しんでいる。 ・砂場でもドーナツ作りをする姿がある。ドングリで飾り付けしているのを見て、周りで見ていた子どもたちもまねてドーナツ作りをして楽しむ姿が見られた。ごちそう作りで使うドングリを一緒に拾ったり、見つけた自然物でごっこ遊びが楽しめるようにしていきたい。</p>	<p>・ソフト積み木を車に見立て、車に乗ってケーキを買いに行く姿が見られた。ケーキ屋さんでは、ケーキをトングでつかんでお皿にのせることや、渡すことができるようになってきている。制作コーナーにイチヨウなどの自然物をだしていると、作ったケーキに貼り付けて楽しみ、友だち同士で見合わせて喜ぶ姿があった。プリンカップにスズランテープを入れてゼリーなどを作ったりしていたので、見立て遊びが楽しめるように色々な容器などを準備しておく。</p>	<p>・ソフト積み木を車に見立て、車に乗ってケーキを買いに行く姿が見られた。ケーキ屋さんでは、ケーキをトングでつかんでお皿にのせることや、渡すことができるようになってきている。制作コーナーにイチヨウなどの自然物をだしていると、作ったケーキに貼り付けて楽しみ、友だち同士で見合わせて喜ぶ姿があった。プリンカップにスズランテープを入れてゼリーなどを作ったりしていたので、見立て遊びが楽しめるように色々な容器などを準備しておく。</p>	<p>●使ったものを教師や友だちと片付けられるように促し、その姿を認めたり様子に気づける言葉かけをしたりする。 ●遊びの中でトラブルになった時には、教師がそれぞれの思いに寄り添ったり、言葉にして代弁したりしながら仲立ちをしたり、しばらく見守ったりする。 ●ごっこ遊びの場を自分で作ってイメージをもっていることに共感し、そこに興味をもっている子どもの遊びへの入り方や遊びの何に面白さを感じているのか読み取りながら同じ場で遊ぶことの面白さや心地よさが感じられるように援助していく。 ●やってほしいことや困っていることを自分なりに伝えようとすることを受け止めていく。 ●子どもの声に耳をかたむけ、思いに共感することで伝える嬉しさを感じられるようにする。</p>	
<p>評価</p>	<p>評価</p>					

3歳児 保育指導案

1 日時 2025年(令和7年)12月4日(木) 9:00~10:30

2 対象児 3歳児 ぱんだ組 14人

3 場所 ぱんだ組保育室・園庭

4 子どもの姿と教師の願い

ぱんだ組は、ほとんどの子どもが集団生活初めてのクラスである。入園当初は、初めての環境に不安や緊張をもち、母親と離れる際に泣いたり、自分のかばんをしばらく身につけていることで安定し、気持ちが落ち着いてから身支度を始めたりするなど、生活のペースに個人差があった。まずは、一人ひとりの思いを受け止め、スキンシップをとりながら、安心して過ごせるよう、関わるようにしていった。教師と一緒に遊ぶことで安定し、少しずつ周りの環境に気持ちが向くようになり、自分の好きな遊びを見つけて遊ぶようになっていった。戸外では、生き物に興味をもち、金魚やウサギに餌をあげることを喜んだり、虫とり網を持ってテントウムシやダンゴムシ探しをすることを楽しむようになった。砂場では、穴を掘って遊んだり、ごちそうを作ってままごとを楽しんだりしていた。教師がそばにいて自分のしたい遊びを見つけ、楽しむ中で、徐々に周りの友だちの存在に気づいて、名前を呼んだり、気にかけてりしながら同じ場で遊びを楽しむようになっていった。

2学期になると、気の合う友だちができ始め、一緒に遊ぶことを楽しむようになってきた。お気に入りのおばけのお面をつけて追いかけっこをしたり、遊びに必要なおばけのバリヤ場を自分たちで準備する姿も見られるようになってきた。砂遊びでは、ドングリや落ち葉をケーキの飾りにしたりイモのツルをスパゲティに見立ててごっこ遊びをしたりするなど、自然物を遊びの中に取り入れて遊んでいる。制作では、見立てやすく扱いやすい素材を用意しておく、箱とスズランテープをつけてかばんにしてお出かけしたり、フラワー紙を丸めて作ったケーキをままごとコーナーに持って行ってごっこ遊びを楽しんだりする姿が見られている。

友だちとの関わりの中では、一緒に遊びたい気持ちが出てきて、そばに行ったり、話しかけたりする姿が見られる。一方で、自分の思いが強く気持ちの切り替えが難しい姿からトラブルになることがある。子ども一人ひとりの思いを丁寧に受け止め、気持ちに寄り添いながら、ともに過ごす楽しさを味わえるように支えていきたい。

5 期のねらい

- 生活の中で自分のできることは進んでしようとする。
- 自分の思いを様々な方法で表現し、相手に伝えようとする。
- 身近な自然や環境に興味をもち関わって遊ぶことを楽しむ。

6 今週のねらい

- 遊びたい場所や用具を自分なりに作ったり活用したりしながら、教師や友だちと遊ぶことを楽しむ。
- 自分の思ったことを教師や友だちに伝えようとする。

7 評価の視点 (○子ども ●教師)

- 教師や友だちと一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉や行動などいろいろな方法で表しながら遊んでいたか。
- 子どものやってみたいことや思いを受け止め、寄り添った関わりや援助ができていたか。

期のねらい	<p>○生活の中で、自分でできることは進んでしようとする。</p> <p>○自分の思いを様々な方法で表現し、相手に伝えようとする。</p> <p>○身近な自然や環境に興味をもち関わって遊ぶことを楽しむ。</p>					<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 使った遊具や自分の持ち物を自分で片付けようとする。 冬の生活の仕方を知り、自分でしようとする。 教師や友だちにしぐさや言葉で思いを伝えようとする。 遊びながらイメージしていることを同じ場で遊んでいる友だちや教師に見せたり知らせたりする。 知っている言葉を使ったり経験したことを教師や友だちに話そうとしたりする。 教師や友だちと一緒に存分に身体を使って遊ぶ楽しさや心地よさを味わう。 身近な遊具、素材を使って自分の作りたいものを作り、それらを用いて友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 秋、冬の自然に触れたり遊びに取り入れたいし、面白さを感じる。 	
子どもの姿と願い	<p>・おうちごっこの中にシャワーができたので、今までドングリ転がしで使っていた坂道をお風呂の外枠にして遊ぶようになった。スズランテープの水を用意すると喜んで、もぐったり寝転んだりしている。おうちに入る入口のところでは、制作したケーキやままごとのごちそうを大きい組さんがやっていたようにお店屋さんにして遊ぶ姿も見られた。教師が遊びに行くと「いらっしやいませ〜」「何がいいですか?」「食べたら、お風呂にも入れますよー」と、お店屋さんになりきって遊んでいる。また、シャワーの水をジュースに見立ててコップに入れたり、お風呂の湯船につかってドングリ釣りをしたりなど遊びの場が連動していて、子どもたちはそれぞれに遊びたいところで遊んでいる。また、友だちが遊んでいる様子を見て、同じようにしてみたい会話を楽しんだりして、友だちとの関わりが楽しい様子が見られる。今週も子どもたちの遊びを見守りながら、一緒に楽しさを共有していきたい。</p> <p>・戸外では砂場の砂を手押し車で運んで、園内を工事し始めた。フェンスの隙間やくぼんだところを見つけて「きれいにしてあげています」と何人かで砂をかけて遊んでいる。砂場遊びで山を作ったり穴を掘っていたりした子どもたちの新しい遊びが始まり、穴がふさがると満足して次の場所を探し、それを見た他の子どもたちも遊びに入ってきている。遊びの広がりを見ていきながら、子どもたちのやりたい遊びを支えていきたい。</p>					<p>☆ 環境の構成 ● 教師の援助</p>	
週のねらい	<p>①遊びたい場所や用具を自分なりに作ったり活用したりしながら、教師や友だちと遊ぶことを楽しむ。</p> <p>②自分の思ったことを教師や友だちに伝えようとする。</p>	<p>内容</p> <p>①おいかけごっこやポックリ、ボールなど教師や友だちと一緒に存分に体を動かして遊ぶ。</p> <p>②自分なりに身近な素材や用具を取り入れ遊ぶことを楽しむ。</p> <p>③遊びの中で遊んでいることのイメージを話しながら、なりきったり物や言葉を使ってやりとりしたりする。</p> <p>④困っていることやしてほしいことを知らせて、教師や友だちと一緒にしようとする。</p>	<p>①遊びたい場所や用具を自分なりに作ったり活用したりしながら、教師や友だちと遊ぶことを楽しむ。</p> <p>☆ボールやポックリを保育室前に置いておく。</p> <p>☆お面、草、虹のトンネルなどを用意し、子どもたちが使いたい時にすぐ使えるようにしておく。</p> <p>☆小さな空き箱・ペットボトル、ふた、スズランテープ、カップ、ドングリ、マツポックリなど用意しておく。</p> <p>☆砂場でごちそう作りが楽しめるようにドングリや落ち葉などもおいて置く。</p> <p>☆先週から楽しんでいるおうちごっこのシャワーや湯船など、子どもたちがおうちを作っている場所に置いておく。工事マークも自分でつけられるように出しておく。</p> <p>●おいかけっこでは、教師も加わり繰り返し遊んだり、走ったりつかまえたりすることを楽しめるようにする。</p> <p>●素材を組み合わせて作ったものを飾ったり身につけたりして遊んでいることに共感したり、難しいところは要求に応じて手伝ったりして作る楽しさを感じられるようにする。</p> <p>●ソフト積み木、トトトブロックで思いついた遊び場を構成して遊ぶ楽しさに共感する。遊びの中で必要な物が出てきたときは、「こんなのはどう?」と知らせたり、子どもたちからの言葉をくみ取ったりしていく。</p>				
	1日(月) 弁当日 絵本返却	2日(火)	3日(水)	4日(木) 国公幼研究大会	5日(金) 絵本貸し出し		
○予想される子どもの活動*ねらい	<p>8:00</p> <p>○登園する ・荷物整理をする。 ・帳面にシールを貼り、ポケットに入れる。・水やり(チューリップ、イチゴ、スナップエンドウ)</p> <p>○好きな遊び(ブロック・ままごと・おうちごっこ・お店屋さんごっこ・パズル・絵本・制作遊び・秋の実遊び・砂場遊び・おいかけっこ・ポックリ・ボール・工事ごっこなど)</p> <p>10:45 片付け</p> <p>○朝の集まり ・手遊び・リズム遊び (おでんちゃん・まつぼっくり・そうだったらいいものにな・やきいもグーチーパー・あわてんぼうのサンタクロース・ジャングルポッケ・ちょっとだけ体操など)</p> <p>絵本返却</p> <p>○お引越ゲーム、おちたおちた、ネコさん何が好き?など *教師や友だちと簡単なルールのある遊びを楽しむ。</p>					<p>10:45 片付け</p> <p>10:45 片付け</p> <p>10:45 片付け</p> <p>10:10 片付け</p> <p>10:45 片付け</p> <p>10:30 降園</p> <p>絵本貸し出し</p>	
振り返り	<p>・お店屋さんではトンクを用意したことで、お店屋さんらしくケーキをお皿にのせたり応対してくれたりする姿が見られた。新たにケーキやジュースなども作っていて、品数も増えている。</p> <p>・工事をする子どもたちが自分で取り外しができるように工事安全マークを壁に貼っていると、外に出る時、自分でつけて遊んでいた。友だちがやっている自分もやりたくて取り付けに戻ってくる子どももいた。マークをつけること自体が楽しい様子も見られた。マークは日数が経つと粘着力が弱くなっていたので、新しいものを準備しておきたい。</p>	<p>・お店屋ごっこをきっかけに、朝、泣いていたM児も気持ちが切り替わり、友だちと一緒に遊び出した。お風呂にシャンプーの空き容器を置いてあるのを見つけると、友だちと髪を洗うまねをして喜んで遊んでいた。ごっこ遊びの場所が子どもたちの登園後の楽しい場になっていると感じる。</p> <p>・工事ごっこは、土山に草を植えたり、どングりを埋めたりして遊んでいた。「森になったら、ヘビが来るかな?」「ライオンかな?」など、友だちと話が盛り上がっていたので、遊びの様子を見守っていききたい。</p>	<p>・制作遊びの素材の中にスポンジを入れておくと、それを小さく切ってほしいと言って来て、カップに入れてアイスに見立てて遊んでいた。H児は、スポンジにペンで色を塗って、紙に押しつけてスタンプにして遊んでいた。それを見ていたM児も同じようにやって遊びだした。子どもの発見から遊び方が広がってきている。</p> <p>・土山への草植えが楽しいようで、園庭のあちこちから草を見つけている。「大きい草はぼくのよ」「トマトも植えたよ。(緑の実が付いた草)赤くなったら先生、食べていいよ」と森を見せてくれ、森作りを楽しんでいた。「明日はゾウが来ているかもよ?」と言っていたので、一緒に確かめてみたい。</p>	<p>②自分の思ったことを教師や友だちに伝えようとする。</p> <p>☆制作コーナーに空き箱・セロテープ・新聞紙・スズランテープ・クーピー・切り紙などを分別して出しておく。</p> <p>●教師も一緒に遊びながら、それぞれのありのままの姿や、していることを受けとめ、楽しさに共感し一緒に楽しむ。また教師や友だちの姿を見てまねっこするきっかけとなったり興味につながったりしているような姿があれば見守り、やりたい気持ちを受け止めたり、幼児のやりたい思いが実現できるよう援助したりする。</p> <p>●使ったものを教師や友だちと片付けられるように促し、その姿を認めたり様子に気づける言葉かけをしたりする。</p> <p>●遊びの中でトラブルになった時には、教師がそれぞれの思いに寄り添ったり、言葉にして代弁したりしながら仲立ちをしたり、しばらく見守ったりする。</p> <p>●ごっこ遊びの場を自分で作ってイメージをもっていることに共感し、そこに興味をもっている子どもの遊びへの入り方や遊びの何に面白さを感じているのか読み取りながら同じ場で遊ぶことの面白さや心地よさを感じられるように援助していく。</p> <p>●やってほしいことや困っていることを自分なりに伝えようとすることを受け止めていく。</p> <p>●子どもの声に耳をかたむけ、思いに共感することで伝える嬉しさを感じられるようにする。</p>			<p>評価</p>

3歳児 保育指導案

- 1 日時 2025年(令和7年)12月4日(木) 9:00~10:30
- 2 対象児 3歳児 りす組 15人
- 3 場所 りす組保育室・園庭
- 4 子どもの姿と教師の願い

りす組は、ほとんどの子どもが集団生活初めてのクラスである。入園当初は、新しい環境に不安になり母親を思い出して涙が出たり「もうおうち帰る?」と何度も聞いてきたりしていた。まずは、不安や緊張がほぐれ安心して過ごせるように、子どもたち一人ひとりの思いを受け止め、そばで一緒に関わったり遊んだりしながら、好きな遊びを見つけられるようにしていった。教師が近くにいることで安心すると、少しずつ周りの環境に気持ちが向き始め、滑り台やブランコ、砂場でのお山作りやごちそう作りをしたり、ダンゴムシやテントウムシなどの生き物に興味をもって見つけたりするようになった。歌や手遊び、ふれあい遊びを取り入れ、みんなで一緒に歌ったり動いたりするなかで、子どもたちは同じクラスの友だちを意識するようになり、名前を呼んだり一緒に遊んだりする姿が見られるようになってきた。

2学期になると友だちを求めて遊ぶ姿が見られ、友だちを探したり、気にかけてりするようになってきた。友だちと一緒に遊ぶことが楽しくなってきた。運動遊びのサーキットの道具を使って、おぼけのおいかげごっこのバリヤ場にしたり、自分たちのやり方で遊んだりして楽しんでいる。1学期から楽しんでいた幼稚園ごっこは、誕生会、運動参観日、避難訓練など自分たちが経験したことを先生役、子ども役になって再現しながら遊んでいる。楽しかった遊びを次の日も繰り返しやったり、遊ぶ友だちが増えたりしながら、継続した遊びが見られるようになってきている。

また、制作遊びへも気持ちが向き始め、自分の作りたいものを作ったり、友だちが作っているものを見て同じように作ってみたりすることを楽しんでいる。出来上がったもので遊べるような場所を作ったり知らせたりすることで、一旦作ったものを置いておき、後日またそれで遊んだり改良したりする姿が見られた。そのなかで、シャワーができたことをきっかけにおうちごっこが広がっていて、作ったものを遊びに取り入れて友だちと一緒に遊んでいる。

その一方、友だちとの関わりが見られるようになってくる中で、自分の思いを通したり、譲れなかったりすることでトラブルになることがある。教師がお互いの思いをくみ取りながら一緒に話をしていくと、自分なりに考え、友だちに声をかけに行き仲直りしようとする姿もあり、日々子どもたちの成長を感じている。子どもたち一人ひとりの気持ちに丁寧に向き合い、いろいろな「やってみたいこと」を支え、実現していく楽しさ、共感しあえる楽しさを味わえるようにしていきたい。

5 期のねらい

- 生活の中で自分でできることは進んでしようとする。
- 自分の思いを様々な方法で表現し、相手に伝えようとする。
- 身近な自然や環境に興味をもち関わって遊ぶことを楽しむ。

6 今週のねらい

- 遊びたい場所や用具を自分なりに作ったり活用したりしながら、教師や友だちと遊ぶことを楽しむ。
- 自分の思ったことを教師や友だちに伝えようとする。

7 評価の視点(○子ども●教師)

○教師や友だちと一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉や行動などいろいろな方法で表しながら遊んでいたか。

●子どものやってみたいことや思いを受け止め、寄り添ったかわりや援助ができていたか。